

日本社会情報学会ニュース

第 18 号 2004.5.28

- I 新会長の挨拶
 - II 理事会役員の変替と役割分担について
 - III 2004 年度第 9 回研究大会の開催校と日程について
 - IV 2004 年度第 9 回研究大会・企画実行委員会の設置
 - V 第 9 回研究大会 自由報告部会の報告希望者募集
 - VI 第 9 回研究大会 ワークショップ企画案の募集
 - VII 研究大会開催までの今後のスケジュール概要
 - VIII 規約改正問題についてのお知らせ
 - IX 研究会の活動報告について
 - X 2004 年度・学会誌『社会情報学研究』の原稿募集
 - X I 会費納入のお願い
 - X II 事務局から
-

I 新会長の挨拶

会長着任にあたってのご挨拶

会長 田崎 篤郎

日本社会情報学会も、その発足からほぼ 10 年という月日を経ようとしています。振り返れば、この 10 年間は、学会活動のさまざまな面において創生期にあたる期間でありました。この間の社会情報学の研究状況をみますと、特に、昨今、注目すべき論文、著作が多数刊行され、日本社会情報学会としても、これまでの創生期から発展期に移っていかねばならない時期にあると言えましょう。その以降の大切な時期に、会長という大役をお受けすることになりましたが、これからの発展期に微力ながら貢献できるように努力していきたいと存じます。学会のますますの発展のためには、何よりも研究活動を活発にしていかなければなりません。そのために、会員の皆様のご協力をお願いしご挨拶に代えさせていただきます。

II 理事会役員の変替と役割分担について

去る 4 月 26 日(土)、2004 年度の第 1 回(通算第 31 回)理事会が開催されました。今年度は、昨年 8 月に実施した理事改選結果ならびに会長・副会長選出選挙の結果にもとづき、理事会の体制も、新しい装いのもとにスタートすることになりました。第 1 回理事会では、今期(2004 年 4 月から 2006 年 3 月まで)の各理事の役割分担について審議し、以下のとおり、承認を得ましたのでお知らせします。

今年度より、研究活動のより一層の活発化を図るために、地区別に研究委員会担当理事をお願いすることになりました。

会 長	田崎 篤郎:立正大学文学部
副会長(主として渉外担当)	阿部 圭一:静岡大学情報学部
(主として学会内担当)	伊藤 守:早稲田大学教育学部
学会賞選考委員会担当	吉井 博明:東京経済大学コミュニケーション学部
	岡 隆光:呉大学副学長
	炭谷 晃男:大妻女子大学社会情報学部
研究委員会担当	西垣 通:東京大学大学院情報学環
(補佐)	伊藤 守:(前出)
北海道地区担当	長田 博泰:札幌学院大学社会情報学部
東北信越地区担当	(未定)
関東地区担当	西垣 通:(前出)
	吉井 博明:東京経済大学コミュニケーション学部
中部北陸地区担当	安田 孝美:名古屋大学情報文化学部
近畿地区担当	黒葛 裕之:関西大学総合情報学部
九州地区担当	杉山 あかし:九州大学比較社会文化研究院
学会誌編集委員会担当	音 好宏:上智大学文学部
	戸田 光彦:新潟大学人文学部
	小林 宏一:東洋大学社会学部
渉外交流委員会担	正村 俊之:東北大学文学部
	岡 隆光:(前出)
	小林 宏一:(前出)
法規委員会担当	田村 泰彦:群馬大学社会情報学部
	濱田 純一:東京大学大学院情報学環
総括理事担当	前納 弘武:大妻女子大学社会情報学部
監事	林 茂樹:中央大学文学部
	水越 伸:東京大学大学院情報学環
事務局長	炭谷 晃男:大妻女子大学社会情報学部

(以上の役割分担のもと、現在、各種委員会委員の委嘱をお願いしているところです。その詳細につきましては、次号の会報にてお知らせします。)

Ⅲ 第9回研究大会の開催校と日程について

開催校 茨城大学教育学部

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

日 程 2004年10月2日(土曜日)、3日(日曜日)

2004年度の日本社会情報学会研究大会は、上記のとおり、茨城大学教育学部にて、お引き受けいただくことになりました。開催校の岩佐淳一会員から、以下のような「ご挨拶」をお寄せいただきました。

日本社会情報学会第9回研究大会を開催するにあたって

茨城大学教育学部 岩佐 淳一

本年10月2日(土)、3日(日)の両日、第9回研究大会を茨城大学で開催することになりました。徳川家の伝統を受け継ぐ水戸の地で、研究発表会を開催させていただきますことを大変光榮に存じております。

本学においては社会情報学会会員が1名と研究大会開催には極めて弱体かつ不十分な体制と言わざるを得ませんが、大会の成功に向けて最善を尽くしたいと考えておりますので、事務局はじめ会員各位のご支援とご協力をお願い申し上げます。

水戸市は藩校講道館、日本三大名園の一つ偕楽園など数多くの史跡が残る歴史のある街です。隣市常陸太田市には水戸光圀の隠居所西山荘も現存しております。どうぞこの機会にお越し下さいますようご案内申し上げます。

IV 第9回研究大会・企画実行委員会の設置

第9回研究大会に備えて、以下のスタッフによる企画実行委員会が編成されました。よろしくご尽力のほどをお願いいたします。

第9回研究大会・企画実行委員会

委員長 岩佐淳一

副委員長 西垣 通・前納弘武

委員 伊藤 守・吉井博明・安田孝美・井川充雄・黒葛裕之・常木瑛生
杉山あかし・長田博泰・高橋 徹・森田 均・北村順生・大野哲夫
守弘仁志・炭谷晃男

V 第9回研究大会 自由報告部会の報告希望者募集

第9回研究大会の日程が決まりましたので、早速、自由報告部会の報告者を募集します。自由報告部会は10月2日(土)午前・午後と、3日(日)午前に開催される予定です。報告を希望される方は、下記の留意事項をお読みになってお申し込みください。テーマ部会(ワークショップ)の報告者については、企画案の詳細が決まり次第、改めて募集いたします。

●応募にあたっての留意事項

- ① 自由報告をお申し込みになる方は、以下の事項を明記の上、郵送ないしメールのいずれかでお申し込みください。
 - ・氏名
 - ・所属
 - ・報告タイトル
 - ・連絡先住所、電話、メールアドレス
- ② 報告時間は1報告につき30分(簡単な質疑を含む)を予定しております。(部会編成の都合により、発表時間の調整をお願いする場合がありますので、あらかじめご承知

おきください。)

- ③ 報告の日程の指定には応じかねますので、ご了承ください。
- ④ 応募締め切りは、2004年7月20日とさせていただきます。なお、報告要旨原稿の提出締め切りは、2004年8月20日とし、この報告要旨原稿の提出をもって、最終的なエントリーとします。
- ④ 以上の留意事項をご理解いただき、必要事項をご記入の上、郵送ないしメールにてお送りください。

●自由報告部会発表申し込み書の送り先

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

茨城大学教育学部岩佐淳一研究室内

日本社会情報学会大会企画実行委員会 宛て

電子メール宛先 iwasa@mx.ibaraki.ac.jp

電話 029-228-8320(直)

VI 第9回研究大会 ワークショップ企画案の募集

- ① 以下の要領で、第9回研究大会・ワークショップの企画を募集します。積極的なご応募をお願いします。

- ・コーディネーターの氏名、所属
- ・報告者の氏名、所属
- ・コメンテーターの氏名、所属
- ・タイトル
- ・ワークショップの趣旨
- ・代表者の連絡先住所、電話、メールアドレス

- ② 応募締め切りは、2004年7月20日とさせていただきます。
- ③ ご提案いただいた企画案の採否については、企画委員会の検討によることとします。また、採択された場合も一部変更する場合があります。

●ワークショップ企画案申し込み書の送り先

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

茨城大学教育学部岩佐淳一研究室内

日本社会情報学会大会企画実行委員会 宛て

電子メール宛先 iwasa@mx.ibaraki.ac.jp

電話 029-228-8320(直)

VII 研究大会開催までの今後のスケジュール概要

大会当日まで、ほぼ以下のようなスケジュールを考えております。よろしく、ご協力のほどをお願い致します。

- 2004年5月25日 自由報告希望者・ワークショップ部会テーマの募集開始
7月20日 自由報告希望者・ワークショップ部会テーマの募集終了
8月20日 報告要旨の原稿締め切り・大会プログラムの作成
8月20日 「報告要旨集」の編集・印刷・製本
9月初旬 「報告要旨集」および大会プログラムの発送
10月2日 研究大会・総会・理事会

Ⅷ 規約改正問題についてのお知らせ

去る4月26日の理事会におきまして、本学会の規約改正に関連して2つの問題が話し合われました。ひとつは、これまでも検討を続けて参りました「理事の三選禁止」のルールをどのように明文化するかという問題。もうひとつは、会長・副会長の選出方法に関わる問題です。この2つについては、新しい理事会体制のもと、特に法規委員会にて検討していただくことになりました。いずれの問題も、その実際の運用を考えますと、今年度の総会に図らなければ次回の理事選挙・会長選出選挙に間に合わないというタイムスケジュールですので、今年10月の総会におきましてご審議をお願いすることになります。

両方の問題とも、本学会にとっては重要な問題でありますので、理事会での今後の検討内容につきましては、逐一、会報でお知らせし、ご意見をお寄せいただきたいと存じます。よろしくお願い致します。

Ⅸ 研究会の活動報告について

去る3月初旬、日本社会情報学会にとって、重要な研究会が2つ開催されました。以下、その活動内容の概要をご報告します。〔1〕については、研究会開催に尽力された原宏之会員（明治学院大学）に記述していただき、〔2〕については、事務局において取り纏めました。



〔1〕 日本社会情報学会公開研究会

場所 明治学院大学白金校舎

「コミュニケーション研究の今日的課題—フランス、日本の学問状況から」

司会 伊藤守(早稲田大学)

パネリスト ジャン・ラガーヌ(プロヴァンス大学)

石田英敬(東京大学)

田畑暁生(神戸大学)

水島久光(東海大学)



2004年3月5日、本学会公開研究会が開催された。今回は地区の枠を超えて、またフランスからゲストを向かえて国際シンポジウムのかたちをとり、学会員に加えて、研究者、市民、学生をふくめて、幅広い方々の参加となった。伊藤副学会長から、いまなぜコミュニケーション研究が求められているのかとの課題をめぐって包括的な導入と日本社会情報学会の特色の説明があり、つづいて個別の報告に移った。田畑氏から「コミュニケーション」研究という制度が、九〇年代の大学

改革(設置基準の大綱化による教養部廃止にはじまる学科再編)と密接な関係にあったことが指摘され、これを受けて情報記号論の研究を進める石田氏も、当初の予定を変更して、広く大学制度と政治の現状を「教養」としての知の視角からとりあげ、これを(スペクタクル社会における)「批判力」の問題と位置づける報告が行われた。ジャン・ラガーヌ氏は、現在フランスの保守政治をめぐる問題(国家政治の世俗性、スカーフ登校問題など)と、世論を形成するジャーナリズムのディスコースの「スタイル」の問題まで、きわめて具体的な題材をもとに、フランスにおけるコミュニケーション研究の紹介が行われた。水島氏からは、近刊予定のパス記号論によるメディア論の読み直しに関する著作の話題から、大学におけるメディア研究・コミュニケーション論・社会情報学などの教育者・研究者の資格と専門性の問題まで、経験と理論を橋渡しする報告があった。ディスカッションにはいる前に、運営責任者の原より、三木清の技術論をめぐって、近代化におけるテクノロジーの問題と、「コミュニケーション」がまだ日本語に翻訳されない問題について短い報告があった。

ディスカッションに続き、会場からの質問も行われ、短い時間ではあったが、まずはフランスの学界との協力関係の第一歩として充実した研究会であった。またその意味で、議論が「制度」の話題中心になったことはきわめて妥当なことであったと思われる。今後、よりつめたかたちで、「社会情報学」という(インター・)ディシプリンが、諸国の現状と比較され、また対話を続けることが望ましいと思われる。



〔2〕 第1回 日本社会情報学会合同研究会 場所 早稲田大学教育学部16号館6階605
統一テーマ「今日的課題としての社会情報学」

司会 遠藤薫(学習院大)・正村俊之(東北大)
報告者 西垣 通(東京大)
伊藤守(早稲田大)
広松毅(東京大)
木村忠正(早稲田大)



「我が国には『日本社会情報学会』という同一名称の学会が2つあり、両学会はこれまで独立に活動を続けてきました。しかし、社会情報学の確立・発展を目指すという点では共通の目標もっています。情報化が進展している今日、情報にかかわる諸問題を多角的な視点から考察することは、現代社会の解明にとって不可欠な課題となっています。社会情報学がこの課題に応えるためには二つの学会のあいだで研究交流をはかることが必要であるように思われます。」

このような趣旨のもと、2つの日本社会情報学会の第1回合同研究会が、去る3月6日に開催されました。遠藤・正村両氏による開催の趣旨説明に続き、第1報告者の西垣氏は、「基礎情報学の地平」と題して、理系の学問と社会系の学問の両者に共通する情報基礎理論を、「オートポイエティック・システムとしての生命(ならびに社会)」という観点から構想する氏の最近の研究成果を披露され、社会情報学の理論的な土台を考えさせる知的刺激にあふれる内容でした。続いて、伊藤氏は、「社会情報学の次のステップへ向けて」と題し、学会発足から約10年を経過した今日、これまでのメディア研究の全般的傾向、すなわち、縦割りのメディア分析や個別メディア論に偏った研究から脱皮することを提唱し、それに代わって、さまざまな要因が形成する「境界面」に注目し、

二項対立を超えたパラダイムともいべき「インターフェースの方法」への方向転換の必要性を強調し、その若干の具体的な研究例について言及されました。

第3報告者の廣松氏は、社会情報学の学問的なイメージの混乱、すなわち、「社会情報+学」と捉えるべきか、それとも、「社会+情報学」と考えるべきか、という社会情報学の根本的な問題に触れつつ、その問題克服の方向性のひとつとして、メディアとコンテンツのトータルな把握の必要性を提唱されました。最後に、第4報告者の木村氏は、現代の科学のあり方をめぐる3つの類型、すなわち、「制度化されたディシプリン」を軸とする「モード1」科学、社会的需要に応じて勃興してきた実践的な科学研究活動としての「モード2」科学、第3に、「モード2」科学の蓄積を背景にして、個々の現象の体系的な理解を目指す「モード3」科学、この3つのタイプのうち、社会情報学は「メタ応用科学」として第3番目の類型に属するとの見解を主張されました。

いずれの報告も、社会情報学のあり方、あるいは、その現代的課題を考える者にとっては、まことに重要な指摘であり、報告に続くディスカッションにおいても、特に、前二者は理論的な側面において、後二者は、個別具体的な事象の分析面において、多くの示唆を得る活発な議論が展開されました。参加者も30数名に達し、今後とも、この種の合同研究会を年に一回くらいは開催できるように努力することを誓いながら散会となりました。

X 2004年度・学会誌『社会情報学研究』の原稿募集

学会誌『社会情報学研究』は、昨年度から、年2回(9月、3月)の発行になりました。以下の要綱をご理解のうえ奮ってご投稿ください。(『社会情報学研究』編集委員会委員長 音好宏)

- A. 投稿原稿は、査読委員会により査読を受けた後、掲載の可否を編集委員会が決定する。
- B. 投稿予定者は、4月30日(1号)または9月30日(2号)までに、論文のタイトルをハガキで学会事務局に連絡する。
- C. 投稿原稿の締切は5月31日(1号)また10月31日(2号)を必着厳守とする。投稿者は、審査用の原稿を3部およびフロッピーを学会事務局に送付する。
- D. 原稿等の送り先
9巻1号 〒206-8540 多摩市唐木田 2-7-1
大妻女子大学社会情報学部 炭谷研究室気付
日本社会情報学会事務局 宛
TEL 042-339-0056(研究室) , FAX 042-339-0056

なお、詳細は学会 Web ページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/jsis>)の投稿要領、論文原稿執筆の手引きをご覧ください。

X I 会費納入のお願い

年度が替わりましたので、2004年度の会費を納入いただきますようお願いいたします。このところ、会費納入の状況が芳しくありません。また、2003年度分以前についても、未納の方がいらっしゃいます。今回は、3年以上の会費滞納の会員には振込用紙を同封いたしましたので、ご確認のうえ納入いただきますようお願いいたします。

なお、本年度会費の銀行引き落としは6月末に行う予定です。銀行引き落としを希望される会員は事務局までお申し出ください。

X II 事務局から

今年度から、理事会の体制が一新されました。特に今期より、研究会活動の活性化を図るために、地区毎に研究委員会担当理事が委嘱されました。田崎新会長の挨拶にもありましたように、各地区の活動が順調に発展していくよう会員の皆様のご協力をお願い致します。他方、内部的には、本号にも触れましたように「規約改正問題」を抱えており、今期も、学会運営に関しては多くの課題が待ち受けているように思われます。

理事会体制は一新しましたが、事務局体制は、前期に続いて、大妻女子大学社会情報学部でお引き受けすることになりました。何かと至らぬことが多いかと思いますが、よろしくご指導のほどをお願い致します。学会活動に関して何かご意見がございましたら何なりとお寄せいただきますようお願いいたします。

日本社会情報学会事務局	〒206-8540 東京都多摩市唐木田2丁目7番地1号
	大妻女子大学社会情報学部内
TEL: 042-339-0056・0071・0036	FAX: 042-339-0044・0056
e-mail: s-info@otsuma.ac.jp	URL: http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/index.html